

2023年度 事業報告

1. 機関誌「部落解放研究くまもと」の刊行

(1) 第86号「特集 優生思想を問う ～優生訴訟と生きる権利～」

2023年10月31日発行

「優生思想を問う ～優生訴訟と生きる権利～」

優生訴訟熊本弁護団 弁護士 松村 尚美

「藤崎宮祭礼と『ボシタ』

— 『西遊日記』が伝えるもの —

熊本県部落解放研究会 吉田 文男

(2) 第87号「特集 部落問題とは何か ～差別「排除」の根源を探る～」

2024年3月1日発行

「部落問題とは何か ～差別「排除」の根源を探る～」

長崎人権研究所 副所長 阿南 重幸

「部落差別事件とどう向き合ったか」

菊池市人権啓発・男女共同参画推進課

地域人権教育指導員 平井 靖彦

※機関誌の発行にあたって

①年2回の刊行は定着してきたので、引き続き原稿のストックにつとめる。

②そのために2号分の編集概要を確定して、会員及び会員推薦の方々から
の原稿募集につとめると共に、各研究会の講演・報告を可能な限り原稿
化する。

2. 『熊本の被差別部落史 前近代』の編さんと同書の刊行

「熊本の被差別部落史 前近代」の編さん事業は、2011年10月23日に開かれた第一回の調査委員会から実質上スタートした。2011年から2016年の5年計画で、県下一円の史料調査をおこない、最終年度に700頁の「熊本の被差別部落史 前近代」と題した概説編・史料編・年表を一冊としたものを刊行する予定で取り組みを進めてきた。

熊本県の被差別部落史に関する研究が本格的に始まったのは、1973年12月に熊本県部落史研究会が結成されてからである。翌1974年10月に『熊本県未解放部落史研究 第一集』が刊行され、二地区の実地調査報告と合わせて、「部落史関係史料編」が掲載され、寛永10年の人畜改帳をはじめとする史料紹介がおこなわれた。『同研究』はこれ以降ほぼ年1冊のペースで刊行され、1977年に第5集が刊行された。

その後、熊本県部落史研究会は、1978年から熊本県部落解放研究会として発足。機関誌『部落解放研究くまもと』誌上に、史料紹介の努力を続けてきた。そして、1997年8月には、『熊本部落解放史史料 近世編Ⅰ』を刊行。重要史料である「斉藤家文書」の全面的な紹介とともに、大部の「近世熊本藩被差別民衆史年表」

を収録した。同書はその後の継続的な刊行を目指したものであったが、諸般の事情から『Ⅰ』のみの刊行で終わってしまった。

今回の編さん事業は、これまで本会によっておこなわれてきたこれらの研究を集大成し、今後の研究につなげていくことを最も大きな目的としている。

これまでに発掘・紹介された関係史料はかなりの量におよんでいるが、実はこの史料は熊本県立図書館が所蔵する『肥後国検地諸帳』という全体で5000点をこえる大部な史料の一部をなすものであった。

また、先に作成された「近世熊本藩被差別民衆史年表」では、年表項目の典拠は原文書だけでなく活字化された史料も多く使用されていたが、その後の熊本の歴史研究の進展のなかで、さらに多くの史料が活字化され、その中には被差別部落史に関わるものも少なからず見つけられる。今回の編さん事業では、これらの活字化された史料を網羅的に検索し、関係するものを史料集に採録すると同時に、年表項目とすることを目指している。

事業開始以来、「肥後国検地諸帳」の調査を中心におこなってきた。すでに穢多村関係だけで、4冊の慶長検地帳（山鹿郡上御宇田村、同郡湯之町、玉名郡河崎村、合志郡久米村）が見つかった。その中の「山鹿郡上御宇田村検地帳」については、2014年3月1日発行の機関紙「部落解放研究くまもと 第67号」で初めて史料紹介した。

さらに、鉢開関係の検地帳類も多く発見されており、これまで知られていた「人畜改帳」の内容を具体的に検討できる条件もそろいつつある。これまでの調査により、山本郡を始めとして県北の5郡に鉢開が広がっていたことが分かり、鉢開の存在が肥後国の被差別部落史にとってきわめて重要なものであることをうかがわせている。

これまで、「肥後国検地諸帳」の釈文作成や永青文庫の検索等、従来からおこなわれてきた作業を引き継いで完成させるとともに、これまでは充分に取り組みなかった在地文書の調査等の取り組みも進めてきた。特に、2013年には在地史料調査として天草の上田家文書の調査を実施、釈文作成や史料の整理等にとりくんできた。

また、2016年度には天草の苓北町の平井家文書の調査を実施し、その一部は2017年度に『部落解放研究くまもと第74号』で史料紹介した。今年度も引き続いて、そうした調査・研究の諸史料の整理と原稿作成に取り組んでいく。

「肥後国検地諸帳」の史料調査は、熊本地震による熊本県立図書館の臨時休館により一年ほど中断を余儀なくされたが、2017年3月末にやっと全面開館し、中断していた編集作業を再開した。検地帳に続き、ストップしていた人畜改帳の史料複写もすべて完了し、調査委員会の専門委員の阿南重幸さん・橋口和孝さん（長崎人権研究所）、中村久子さん（佐賀部落解放研究所）に送付、釈文を依頼した。

現在、依頼した「肥後国検地帳」関係の釈文はほとんど完成している。

「人畜改帳」については、すでに東京大学出版会から『大日本近世史料 肥後藩人畜改帳』として出版されているため、釈文から除外することになった。

これまで資料の調査、収集も引き続き進めながら、編さん委員会を中心に「熊本の被差別部落史 前近代」の一日も早い刊行に向けて取り組みをすすめてきたが、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響が出版業界にも及んできたこともあり、出版の具体化が進展しないでいる。

全体で二巻を予定しているが、ページ数の見当はついていない。現在、上巻の原稿作成（編年体史料と年表）を終えた段階である。

<今回の編纂物の史料価値について>

- (1) 編年体史料の大部分は、既出の史料を載録したもので、新規性には劣るが、南北朝期の「宿」と鎌倉期の「皮多」の史料は、既出の史料ながら部落史関係のものとしては未紹介のものである。
これまで「宿」の分布は、畿内と鶴岡八幡宮と宇佐八幡宮のみと考えられていた通説を大きく書きかえるものである。皮多についても、戦国期までは関東と畿内に限定して考えられていたものを大きくかえるものである。
- (2) 「天草」「人吉藩」についても、これまでは全く知られていなかった史料で占められている。
- (3) 「検地帳編」の収録史料は、3点を除き、新出資料である。しかも、天正・慶長期の検地帳が大部分を占め、この時期の検地帳が被差別部落史の史料として紹介されるのはこれまで無かっただけでなく、今後もまず考えられないことである。

3. 部落の実態調査（聞き取り調査）の実施

同和対策事業特別措置法施行以来、取り組まれてきた同和対策事業がどのような変化を被差別部落にもたらし、そのことにより現在の部落がどのような状況にあるかを理解するとりくみの一環として、県内の部落出身者の聞き取り調査を計画、実施した。本調査にご協力いただける幾組かの家族の、親・子・孫の3世代、或いは親・子2世代にわたるインタビューを通して、過去と現在を明らかにし、未来を展望したいと考えている。

これまで4組の家族の聞き取り調査を実施し、親世代から子ども世代、そして孫世代の聞き取り調査とその整理に取り組んできた。

4. 定例研究会の開催

(1) 連続講座の実施

一般県・市民及び会員の学習と社会啓発をかねて、連続講座を開催したいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催できなかった。

(2) 部落史古文書研究会の実施

部落史古文書研究会は、これまで「永青文庫」を撮影・製本した史料のコピー及び「嶋屋日記」のコピーを使用し、解読、部落解放史に関する史料の収集をすすめてきた。「永青文庫」史料以外の関係資料や、古文書研究会での情報交換により収集した史料も併せて解読してきた。「市井雑式草書(乾)」「同(坤)」及び「市尹要覧」「御郡方文書」「大覚帳頭書」「嶋屋日記」「年々覚頭書」「上田家文書」を読み終えた。

(3) 部落解放セミナーの実施

熊本県下の部落解放・人権諸問題についての、研究者・活動家を招いて学習を深める機会を設ける予定であったが実施できなかった。

(4) 各地の部落解放(史)研究会(所)との交流・連携

① 部落解放・人権確立第42回全九州研究集会

部落解放第35回熊本県研究集会

(熊本市総合体育館 他)

<第4分科会> 部落差別の歴史と現在

10月7日(土)～8日(日)

② 第40回九州地区部落解放史研究集会(佐賀アバンセホール)

7月27日(木)

記念講演:「水平社と同愛会－有馬頼寧の社会運動」

黒川 みどり さん(静岡大学)

7月28日(金)

各県報告 福岡・・・関 儀久 さん(福岡人権研究所)

熊本・・・矢野 治世美 さん(熊本県部落解放研究会)

佐賀・・・中村 久子 さん(佐賀部落解放研究所)

長崎・大分・鹿児島・宮崎は資料報告

まとめ:共同研究者 花田昌宣

(熊本学園大学/熊本県部落解放研究会並びに
九州地区部落解放史研究連絡協議会会長)

(5) その他

①第27回全国部落史研究大会

8月8日(土)～9日(日) 滋賀県近江八幡市

②第50回熊本県高等学校同和教育研究大会

7月30日(日)～31日(月) 南阿蘇村立白水小学校 他

③第51回熊本県人権教育研究大会

10月21日(土)～22日(日) 上益城地区

⑤第74回全国人権・同和教育研究大会

11月25日(土)～26日(日) 兵庫県・大阪府・京都府

上記のほか、部落解放同盟熊本県連・九プロ・中央本部、及び熊本県人教・
九同教・全同教・県就人同研・部落解放研究所をはじめ各地部落解放(史)
研究会(所)などの主催する研究・研修会に参加。

5. 共同事業・共闘活動の推進

(1) 熊本県人教との共同事業

①課題別研究会「部落問題学習」

8月8日(水) 植木文化ホール

講演:大塚 正純 さん

(「公立夜間中学を育てる会・福岡」代表

自主夜間中学・福岡よみかき教室 事務局)

演題:「明かりをともし教室～夜間中学からの景色～」

(2) 部落解放同盟熊本県連・熊本県人権教育研究協議会との共同事業・共闘

① 藤崎宮祭礼「ボシタ」呼称を考える会

9月3日(日) 熊本学園大学第11号館1163教室

講師:阿南 重幸 さん

(長崎人権研究所 副理事長

演題:「部落問題とは何か－差別『排除』の根源を探る－」

- ② 藤崎八幡宮祭礼問題に関する熊本県・市、藤崎八幡宮への申し入れ事項の実現や社会啓発の働きかけ
(必要に応じ、セットン熊本(指紋押捺制度を考える熊本の会)、大韓民国居留民団、在日朝鮮人総連とも連帯・共闘する)

- ③ 歴史的背景の中でつくられた地名の調査確認と、その取り扱いについて検討をはじめめる。

6. 部落解放史関係の史・資料の調査収集

- (1) 既発掘・収集されている史・資料の整理・保管
熊解研は今日までの調査・研究において一定の成果をあげてきたにもかかわらず、その基礎となった史・資料が全く散逸して研究会としての保管がなされていないものも多い。したがって既発掘・調査の史・資料保有者に提供を働きかけ、整理して研究会として保管、利用の便につとめると共に、現有する史・資料を再整理して利用しやすいように整備。
- (2) 「九州日日新聞」、「九州新聞」その他既刊の史・資料や論稿などから水平社、部落解放史関係の記事や史・資料を収集する。また、熊本県の部落解放運動史の中で、空白の部分である第二次世界大戦後の史実の発掘に努力。
- (3) 「公文類纂」をはじめ行政関係文書の史・資料収集をはじめ、融和運動に関する史・資料の発掘・収集。
- (4) 前近代の史料については「部落史古文書研究会」と連動して、現在すすめている「永青文庫」史料を撮影・製本化して、部落解放史及び被差別民衆に関する史料を整理・保管して利用の便をはかるとともに、解説した史料を機関誌等で紹介。
- (5) 各地で刊行がすすめられている市町村史は、かなりの市町村より寄贈を受けたが、部落解放史・部落問題に関する記述はいずれも皆無または極めて不十分である。ほとんどが近世政治起源説にもとづいて書かれており、誤った認識や差別の拡散につながるおそれがある。したがって、その内容の点検・検討をすすめると同時に、可能なところから市町村史編纂室の史・資料の閲覧・調査を実施
- (6) 各地の古老の聞き取りにつとめると共に、各地域で既に行われている古老からの聞き取りの提供や収集
- (7) 県下の被差別部落で祀られている神社・寺院の調査。
2019年1月21日、白水の神社の調査・聞き取りを実施。故藤本^{あつみ}修さんによれば「吾が部落の祭神は古昔の人は唐崎の神様とも云いたるも、明治の終り、郷社祇園神社の神官、田尻盛光氏が部落の氏神社の祭典執行に来られ、此の部落の氏神は天小屋根命である」として、「この宮は春日神社で神名帳にも記事してあると申さる。」(『部落解放研究くまもと第3号』)という。以来、地元では「春日神社」と呼ばれているようだが、白水支部長は「春日神社ではなく、唐崎神社だ」と断言される。
「神名帳に記事されている」ということなので、神名帳の調査が待たれるが、唐崎神社ということになれば、阿蘇では唯一の唐崎神社ということになる。
- (8) 全国各地の史実や研究等の調査、研修等

7. 「熊解研事務局便り」の発行

熊解研の情報提供に努める。そして、研究会の動きを最小限伝える程度のものからでも発行できるよう努めたいとしていたが、発行できなかった。

8. 研究体制の充実・強化

熊本県部落解放研究会が熊本における部落解放・「同和」教育運動に資するに
たる諸史・資料の整備と教化。

9. 理事会、事務局会について

理事会は年 1 回、事務局会は原則として毎月 1 回開催